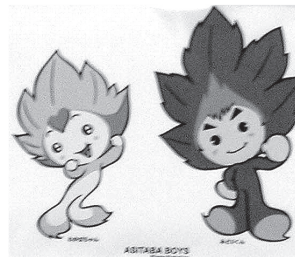


三宅島の全島避難指示解除から1周年を迎え、様々な行事が行われた。島の三宅中学校では2月1日に「村制施行50周年、帰島1周年 村民の日記念事業」が開催された。この中で実施されたフォーラムでは、小・中・高校生の意見交換も行われた。3日には港区で三宅島の人たちを支えたボランティア団体などに対する「三宅島 感謝の集い」が催された。



1周年を記念してデビューした復興キャラクターの「ASITABA BOYS」

帰島開始から1年

記念の行事 島内外で

復興に向けて新たな一歩を



ピエロも登場（村民の日記念事業）



感謝状の贈呈（三宅島1周年 感謝の集い）

帰島丸1周年を迎えた三宅村は、「村制施行50周年、帰島1周年 村民の日記念事業」を2月1日に三宅中学で開いた。平野祐康村長は「この日を迎えられる事に感動している」と述べ、避難中の島民会の会長や災害復旧関係者約50人に感謝状を贈った。

フォーラムでは、「元気になれ、三宅島」で小中高生が意見を述べた。ケート結果も配られた。島は坂やカーブが多い。ゴミが多く汚い。釣り人が跡片付けをしない為に海を汚す。高齢者対策の提案など都会育ちの子どもの目は遠慮がなく、貴重な意見を出していた。

また、同日の夜には音楽祭も行われた。

事務局 便り

- 三宅島非帰島島民電話帳
電話帳の二版を3月中旬予定で配布致します。掲載希望の方はご連絡下さい。
- ネット世話人会開催
3月中旬にふるさとネット世話人会を行いたいと思います。詳細はおってご連絡致します。
- ご寄付のお願い！
新口座を開設しました。手数料は当方で負担致します。

郵便振替口座

口座番号：00120-3-545036

口座名称：三宅島ふるさと

再生ネットワーク

事務局：あすなろ保育園内

電話・FAX 03(3963)5697

担当 大坊・吉田

後に、4年半にわたって三宅島の人たちを支援してきたボランティア団体や島内で復旧事業に携わった企業を代表する5名に感謝状が村長から贈呈された。

第2部の懇談会では、三宅島産サツマイモ焼酎「喜島三宅（きとうみやけ）」の一升瓶と石原慎太郎東京都知事が復興を願って毛筆で記した「喜島三宅」の銘の入った額が紹介された。来賓の都知事からのユーモラスかつ厳しい激励の挨拶の後、伊ヶ谷獅子舞が披露された。参加者たちは、飲食・歓談をしながら、旧交を温め、三宅島の現状と今後について語り合った。

「三宅島ふるさと再生ネットワーク」佐藤就之会長

復興目指し 知恵の結集を

この面では三宅島ふるさと再生ネットワークの佐藤就之会長の、帰島一周年後の状況と課題に関するコメントを掲載した。会長は、復旧・復興の方法を、専門家や行政の意見を聞きながら島民とともに検討するという方針を語った。

帰島一周年にあたり三宅島の現状と課題について、今後連載をしたい。「災害は早く忘れない。」これは人情として理解で

きる。しかし三宅島は周期的に20年に1度噴火を繰り返してきた。この現実を直視した場合、いまでも継

続している噴火災害を風化させては、孫子の代まで禍根を残す事になると思う。

11月12日に予定していた火山市民ネット第4回フォーラム三宅島大会が天候不良のため中止となり大変残念であった。再度専門家や経験者の見解を聞く機会をつくる努力をお願いしたい。

災害の経験

参考に対策を

今回の一斉帰島前に第3回フォーラムが04年8月に開催された。この会で、帰島と復興の問題点に関し、各専門家や雲仙、有珠山の被災地団体と市長などの行政責任者から貴重な意見が述べら



雪で農地造成も中止、悪天候が続き作業はとどこおっている

れた。(HP過去の記事)私も島民連絡会会長として島民の立場から帰島と復興について7項目の要望事項を出した。今回本紙の付録として一部をつけたので行政側の改善施策を期待したい。

で、近々の内にお届けできる予定。帰島一周年関連で、非帰島島民がマスコミで多く取り上げられたが、新聞の切り抜きを協力者に送り大変喜ばれている。

念願の電話帳

第二版も作成中

非帰島島民の電話帳第一版が1月15日に配布されたが、第二版も準備中

希望する方は、事務局伊藤までご連絡を)

島民から手紙

意義があった新聞や写真の送付

七日は真つ白な雪、あら：と朝を向かえまして。窓を開けると電車の線路が長く長く続いています。

(中略)

三宅まで長くかけ橋になつているのなら、通つて見たいな電車の旅でと思う今日この頃です。新年会の時には大変お世話になりました。有難

またお逢い出来る日を楽しみにしております。(練馬区Aさん)(島のお土産有難う。)

御寄付者名

(12月9日～2月2日・○数字は寄付の回数)

【三宅島出身者】

栗本雄介様、高松梅郎様②、大石真様②、須藤幹雄様②、廣瀬佐智子様

【島民】

光安千久子様、佐藤宗ノ子様②、浅沼栄子様

【島外】

小池上照子様、小川恵美様、浅井美子様、福田由加子様、八王子市職員等事業本部、飯田俊様、飯田雅子様、飯田良枝様、中村徹様、中村俊江様

* *

早々にお手紙と沢山の新聞のコピーを送って頂き有難う御座いました。

毎日新聞の記事の中に娘の記事が載っていましたので驚きました。

コピーを送って頂きましたおかげで拝見する事が出来ました。有難う御座いました。先ずはお礼まで。

(坪田地区Iさん)

旧山古志村村長 長島忠美衆議院議員

故郷再生に送るエール

再生ネットの佐藤就之会長が、新潟県中越地震の被災地である旧山古志村村長だった長島忠美衆議院議員に話を聞いた。長島議員は三宅島の人たちに、「みんなが一緒に考えれば、元気な島をつくることができる」というメッセージを送った。



中越地震の避難所で（左から二人目が長島氏）

雪国で暮らす人たちは、今年のような大雪でも、覚悟しています。帰れないところ、雪が降ること、被害が広がるのが心配ですね。今年の

新潟では現在も8千人以上が仮設住宅に住んでいます。「災害3年」という言葉のように、復興は再来年までにやりあげるのが本来の姿ですが、それまでに終わることができないところも出てくると思っています。仮

山古志の現状を 教えてください



略歴（ながしま ただよし）

旧山古志村村長。昨年9月の衆議院議員選挙に自民党比例代表北信越ブロックから出馬し当選。現在は党副幹事長、災害対策特別委員会委員などを務める。（2月22日）

設住宅は2年の約束なので、それまでに生活再建をさせてあげたいのですが、2年で全員が出るのは困難な状況です。山古志は中山間地であり、また6カ月間も雪の下にあるため、道路の復旧が難しいです。住人が少ない地域の復興に経費をかけるのは無駄だという意見もあります。しかし、どんな地域でも住みたい人がいるなら、国が最低限の社会インフラ整備をするべきだと思います。

国や自治体の対応

特に住宅本体の支援は？

残念なことですが、災害はなくなりません。災害から国民をどのように救うかということが国や地方自治体の課題です。また、災害があつたとき、地方自治体は住民に向き合い、地域による差をしっかりと受け止め、支援をすることが大切だと思います。

これは被災者生活再建支援法の話ではないのですが、これまで行われてこなかった宅地の再生に對して国が補助することが決まりました。今後は、住宅本体にも支援する方向になると思います。私は、住宅本体に支援をすることに消極的ではないですが、もう少し議論を重ねる必要があると思っています。一律にお金を出すことは、支援の面では公平かもしれませんが、自力でできる人とは違う人、また被災の程度などにも違いがあるため、結果的に不公平感を生むことになると思います。

これからは公的な支援だけでなく、兵庫などで行われている共助（共済制度）を広げるとともに、自力でできる人は自力でやるという方向を目指すべきです。中越では、復興モデル住宅として1千万円住宅の建設を提案しています。被災者は、義援金や県の制度を利用する中で、限りなく負担が0に近い状態で入居できると思います。2年後の被災者生活再建支援法の見直しの際

三宅の被災者に メッセージを送りたい

噴火のため島を離れた島民の方たちは、避難中に別々の公営住宅に振り分けられたにもかかわらず、民間の力で連絡を取り合っていた結果、精神的にはつながっていたことに感動しました。そのような気持ちをこれから大切にしていってほしいと思います。

故郷はそこに戻れた人だけのものではありません。帰島することができなくても、三宅を故郷と想っている人はたくさんいます。みんなが一緒に考えていけば、以前よりもさらに元気な三宅島を実現することができると思います。

合同新年会 1月15日に

未来を語った楽しいひととき

1月15日に巣鴨の地蔵そば「大橋屋」で、在京三宅会・ふるさと再生ネットワーク合同新年会が行われた。島民約20人、協力者約30人、総勢50名程が参加。歌や踊りも披露され、会は終始和やかな雰囲気だった。

テープから流れる神着の木遣り太鼓の音色が、会場に響き渡る。合同新年会は、午後1時から巣鴨で行われた。第1部は吉田志織世話人と伊藤奈穂子世話人の司会で進められた。

新年の挨拶として佐藤会長は、「避難解除後、噴火は終わり、島民はみな島で平和に生活していると世間では思われている。内地にはまだ千人以上の非帰島島民がいることを話すと驚かれる。内地に残った人は置き去りにされているのが現状」と話し、それぞれの立場から行政にお願いをしていこうと呼びかけた。

その後、非帰島島民の一人である酒井一豊さんが乾杯の音頭を取った。それに続き、島民や島民の支援をしている協力者が、復興を願う挨拶を行った。



和やかな雰囲気で行われた新年会



参加者全員で「必ず帰るよ」を合唱して、第2部がスタートした。この中では、協力団体DTPAのメンバーによるギターと歌、あすなろ保育園の職員による踊り「佐渡おけさ」などが披露された。

第2部 歌や踊りで賑やかに

司会を原口真澄世話人と福田由加子世話人の二人にバトンタッチして、第2部がスタートした。

佐藤会長も「望郷の詩」を熱唱し、会場は大いに盛り上がった。会の終盤では、フォークソングデュオ「ダカーポ」が作曲した「必ず帰るよ」という歌を、島民が早く帰れるようにという願いをこめ、参加者全員で合唱した。

最後には島民と協力者が記念撮影を行うなど、合同新年会は終始和やかな雰囲気で行われ、参加者はにこやかな顔で会場を後にした。

編集後記

神奈川県にある向上高校新聞委員会の卒業生でつくる印刷物編集のボランティア団体「DTPA」です。前号から「三宅島新報」の編集作業をさせていたでいます。1月15日の新年会に参加し、みなさんとふれ合えたことを、嬉しく思っています。少しでもお力になれるよう頑張ります。よろしく願いいたします。(DTPA一同)

非帰島島民 勝見吉雄さん

病気で帰島を断念 大きい生活の不安

プロフィール

立川市在住。奥様と二人での生活。三宅島では電気屋を営んでいた。病身にもかかわらず周囲の人を支えている。



立川市民になり5ヶ月。気管支炎等の病気や脳梗塞を起こしたことでドクターストップがかかり帰島を断念しました。現在は東大病院へ通う日々です。医療保護を受けながら生活をして、社会福祉協議会に預託をしていました。しかし、義援金などで預託金が増え、打ち切られてしまい、年金や貯金から家賃約二万八千円を払う等の生活が続いています。先の

生活が不安で再度、市に申請をしようとしています。島の家や財産は息子に受け渡し管理を任せています。息子は農業をやろうとしておりませんが、水が良くなかったりと難点が多いためです。暖かくなってきたら、東村山や近くに住んでいる島の人たちを探していきたいと思っています。先日も近所の人を訪ね話をしました。